

市政20周年 記念ロゴ作成

崇城大学芸術学部デザイン学科の西田桜さんは、熊本県合志市の市政施行20周年の記念ロゴマークを制作し採用された。制作にあたり、合志市在住者の「子育てしやすい」という意見から子育て政策に着目。英名では「赤ちゃんの吐息」と呼ばれる、市内で生産が盛んであるカスミソウを取り入れた、親子がやさしく抱き合うイメージのロゴマークをデザインした。ロゴマークは今後、市のチラシやポスター、報道資料などにあしらわれる予定で、地域の魅力の発信を後押しする。

崇城大学
(熊本県)





スーパーフードのモリンガで地域活性化

崇城大学 (熊本県)

崇城大学生物生命学部の西園祥子教授は、産学連携でモリンガ葉の健康機能性を解析し、6種類の機能性表示食品を開発した。モリンガはインド原産の植物で、タンパク質や鉄、カルシウムをはじめとするさまざまな栄養成分を含み、日本では熊本を中心に栽培されている。直近では、モリンガ葉入りの雑炊2種類(野菜・とり)を開発し、災害時にそのまま食べられ、栄養価の高い商品が完成した。今後も地域農産品の機能性評価と商品化を進めていく。